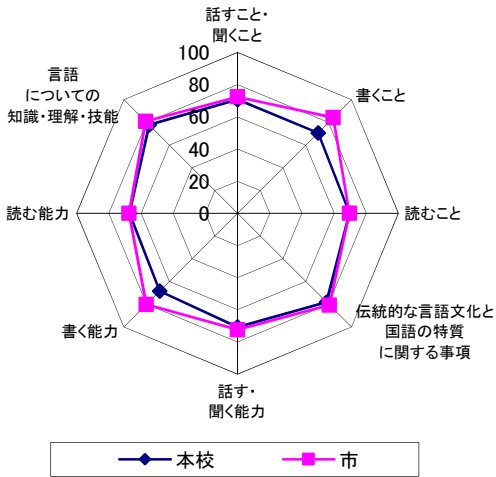


宇都宮市立旭中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	70.7	72.4	70.5
	書くこと	70.8	84.1	70.0
	読むこと	69.6	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.1	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	70.7	72.4	70.5
	書く能力	68.4	80.2	68.0
	読む能力	67.2	67.5	62.4
	言語についての知識・理解・技能	77.7	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

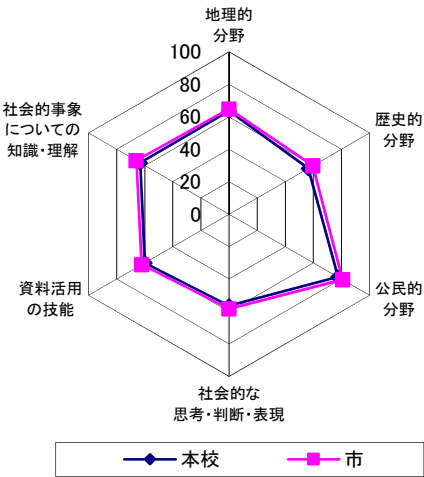
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●正答率は市平均より1.7ポイント低い。 ○話の内容を聞き取る問題では市平均より2.5ポイント高い。 ●内容は聞き取れるが、記述で司会の役割を答える問題になると、市平均より5.9ポイント低い。さらに、条件に従って話し合いの内容をまとめる問題は無回答が32.8%を占めている。	・話し合い活動で、話をまとめたり、整理したりできるようにするために司会進行の仕方を学ぶ機会を設ける。 ・聞き取った内容を整理し、文章で表現できるようにするために、聞き取ったことを記述する機会を増やす。
書くこと	●正答率は市平均より13.3ポイント低い。 ●無回答が17.6%を占めている。 ●条件を満たす書き方、読み取った内容を書くこと、自分の考えを明確にして書くことが、大幅に市平均を下回っている。	・条件を設けた作文に書き慣れるために、条件のある作文を書く機会を増やす。 ・論理的な文章を書くために、事実をあげ、そこから言える根拠を導き出す練習を繰り返す。 ・課題を観察・分析し、比較する機会を増やすことで、批評するための基礎力を身に付ける。
読むこと	○正答率は市平均と同等のポイントである。 ○文学作品の読み取りでは、登場人物の心情や様子をとらえる問題は市平均より高い。 ●説明的文章では、文章の展開をとらえる問題が市平均より低い。	・説明的文章を読む際に、段落と段落の関係や、役割を捉えながら読むことを意識づけることで、論理的に文章を読む力の定着を図る。 ・形式段落ごとに要約するなど、文章の内容を捉える練習を繰り返すことで、文章の内容を捉える力を伸ばす。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●正答率は市平均より2.7ポイント低い。 ●漢字の書き取りは市平均より全体的に低い。 ●対義語・品詞・敬語などは市平均より低い。	・基礎的な漢字の定着を図るために、小学校で習った漢字を日常的に使うことや、漢字テスト等を用いて、復習する機会を設ける。 ・文法はワークやプリント等を用いて、反復学習を行うことで、基本的な知識の定着を図る。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	63.6	64.8	54.5
	歴史的分野	56.4	59.7	52.2
	公民的分野	77.5	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	56.5	58.3	49.5
	資料活用 の技能	60.0	62.2	53.1
	社会的事象についての知識・理解	63.3	66.0	57.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

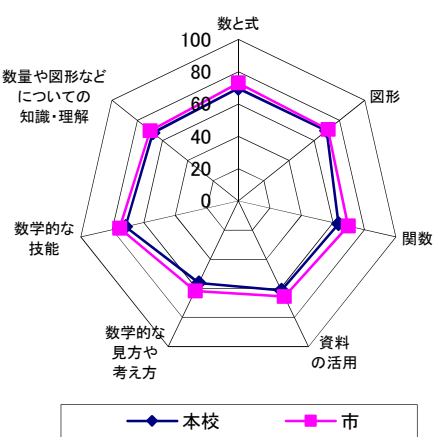
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●正答率は市平均より1.2ポイント低い。 ○緯度・経度に関する問題、日本の人口における過疎・過密に関する問題などは約3ポイント市平均より高い。 ●日本の諸地域に関する問題(九州地方・四国地方)は、全体的に市の平均を下回っている。	・雨温図等を活用し、農業と気候の密接な係わりについてとらえさせ、地理的な思考力を育成することで、日本の各地域の農業に関する理解を深められるようにする。 ・「山地が多い」「火山や地震が多い」等の日本の地形の特徴をとらえさせるために、世界の地形における造山帯や、地震の震源と火山の分布の特徴と理由を理解させ、その知識が日本の地形の理解につながるようにする。
歴史的分野	●正答率は市平均より3.3ポイント低い。 ○平安時代に関する問題は、全体的に市の平均を上回っている。 ●江戸時代の政治、文化に関する問題が、市の平均と比べ特に低くなっている。	・江戸時代の政治に関しては、初期・元禄期・三大改革など、それぞれの政治を比較することで、特徴をつかませるとともに、江戸時代全体の流れを理解できるようにする。 ・文化に関しては写真や絵を用いて時代の様子をイメージさせたり、資料から時代背景を考えさせたりするなどして、各文化のイメージをつかみやすくする。
公民的分野	●正答率は市平均より2.7ポイント低い。 ○情報リテラシーや情報モラルに関する問題は、市の平均並みで、90%を上回っている。 ●グローバル化と多文化共生に関する問題は、市平均より5.6ポイント低い。	・歴史・地理的分野と比べ、公民的分野は思考・判断に関する問題が市の平均より低かったので、現代社会の特徴に関する資料を多く活用し、資料を分析する力を育成できるようにする。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	69.7	73.0	67.5
	図形	69.7	71.1	59.5
	関数	63.6	69.7	60.0
	資料の活用	61.3	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	56.2	61.8	49.6
	数学的な技能	71.7	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	67.5	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

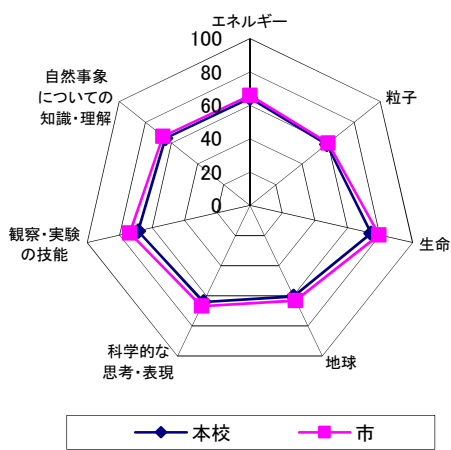
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は市平均より3.3ポイント低く、参考値より2.2ポイント高い。 ○式の計算や展開，因数分解をすることについては、市平均を下回っているものの差は小さい。 ●文章問題を立式したり解いたりする問題の正答率が市平均を大きく下回り、課題が見られる。	・基本的な計算の計算力を身につけるとともに、計算ミスをなくすための工夫として、暗算をできるだけ減らし、計算経過をていねいに書きながら計算を進めることを指導してきた。今後もその取り組みを継続し、さらに計算力の向上と定着を図る。 ・連立方程式や2次方程式を利用する入試問題等を通して、立式する練習と解く練習を繰り返すことで、文章問題に対する苦手意識の解消を図る。
図形	正答率は市平均より1.4ポイント低く、参考値より10.2ポイント高い。 ○作図方法についての理解は、市平均より9.0ポイント高い。また角度に関する問題については、市平均を下回っているものの差は小さい。 ●証明に関する問題の正答率が市平均を大きく下回っている。特に、証明を完成させる問題において差が大きい。	・図形に関する学習については、作図することの大切さを重視しながら授業を進めてきた。今後もその取り組みを継続することで、問題を視覚化しながら解決を図ることができる力の定着を図る。 ・証明については中学2年生で学んだ合同な図形の証明の学び直しを行うとともに、相似な図形を含めた入試問題等を通して、証明する練習を繰り返し、証明するための根拠となることから(定理)を正確に覚え、活用することができるようにする。
関数	正答率は市平均より6.1ポイント低く、参考値より3.6ポイント高い。 ○比例の関係を表す表や1次関数の式とグラフの理解は、市平均とほぼ同じかわずかに上回っている。 ●関数$y=ax^2$の立式や変化の割合を求める問題の正答率が市平均を大きく下回っている。 ●グラフを読み取り記述する問題の正答率が市平均を12.9ポイント下回っており、課題が見られる。	・関数の指導にあたっては、表をつくること、グラフをかくこと、変化の割合を求め方などを重視しながらていねいに授業を進めてきたが、十分な定着が図られていないため、習熟度別学習の時間数を増やすことで定着を図る。 ・グラフを読み取る問題や読み取ったことを記述する問題を多く取り入れることで、グラフや問題の読み取り方や立式の仕方について反復練習を行い、課題の解決を図る。
資料の活用	正答率は市平均より4.3ポイント低く、参考値より2.8ポイント高い。 ○確率を求める問題の正答率は市平均を下回っているものの差は小さい。 ●ヒストグラムの特徴をもとに説明する問題の正答率は市平均より10.5ポイント低く、課題が見られる。	・ヒストグラムや度数分布表から資料の特徴について説明する問題を取り入れることで、ヒストグラムや度数分布表の読み取り方を再確認する。 ・資料の活用の領域で学んだ平均値、最頻値、中央値などの求め方や意味を再確認し、それらの用語を使って説明する問題演習を行うことで、資料を活用する力をつける。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	64.4	66.1	56.4
	粒子	58.9	60.0	57.4
	生命	74.5	79.4	75.2
	地球	60.3	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	64.1	66.8	57.2
	観察・実験の技能	68.7	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	64.7	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

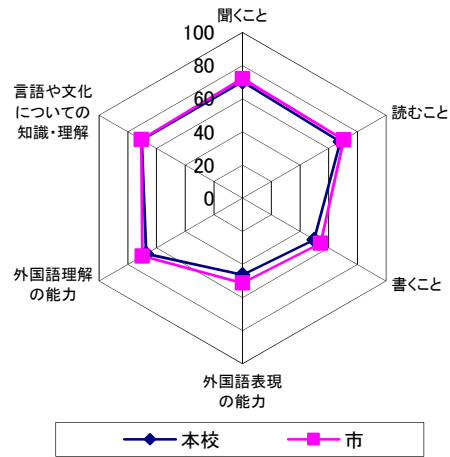
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○現象に対する基本的な知識はあり、市平均並かそれを上回っている。 ●実験の結果から考察するような問題や活用の問題に誤答が多くみられた。	・実験時に、考察後、追加実験を行うような授業の組み立てをすることで、実験結果から考察するような問題や活用の問題をとけるようにする。 ・理科の見方・考え方について、「量的・関係的な視点」をはたらかせることを意識させることによって、考察をする力を身に付けさせる。
粒子	○実験の結果やそれを用いた活用の問題は、市平均より上回っている問題が多く、良好な結果が見られた。 ●器具の使い方や現象の定義など、基本的な知識や技能面の誤答が多くあった。	・器具の使い方など、パフォーマンステストを行うことで、技能や知識の定着を図る。
生命	○植物の分類や刺激と反応についてなど、一部まとめの問題については、参考値を上回っている。 ●どの問題も市平均を下回っており、基本的な用語の理解不足が多く見られる。	・单元ごとに振り返りテストなどを行うことで、基本的な用語の意味が理解できるように促す。
地球	○地層の問題については、市平均より上回っている問題が多く、参考値より大幅に上回っている。 ●気象の問題については、どの問題も市平均より下回っている。	・実際の天気図を用いることで、気団の配置や季節による天気の移り変わりを理解できるようにする。 ・映像教材やモデル等を取り入れることで、生徒が現象をイメージしやすくする。

宇都宮市立旭中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	70.3	72.2	67.8
	読むこと	68.2	70.5	70.4
	書くこと	50.0	54.3	54.0
観点別	外国語表現の能力	46.3	51.2	49.2
	外国語理解の能力	67.1	69.8	65.8
	言語や文化についての知識・理解	70.3	70.7	74.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○リスニング問題において、対話文の応答で正答率が市平均より0.6ポイント高い。 ●内容理解やさまざまな英文の聞き取りについて、正答率が市平均より低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中で、教師や生徒同士での会話活動を通して、適切な応答ができる力を向上させる。 ・ALTの授業を通して、ネイティブの発音に慣れ、さまざまな英文の聞き取りができるようにするため、会話活動を充実させ、帯活動とする。
読むこと	○語形・語法の知識・理解について、市平均並みの正答率であった。 ●長文の読み取りについて、正答率が市平均より5.1ポイント低い。	・英語の語彙力を増やすため、授業において長文を読む活動などの帯活動を取り入れる。 ・グラフや表などを見て、必要な情報を集め、それを英語にすることができるよう、授業の中でも情報収集ができるようなワークシートを用意する。
書くこと	○単語の並べ替えによる英作文において、正答率が市平均並みであった。 ●情報に基づいて書く英作文において、正答率が市平均より、7.3ポイント低い。	・基本英文の暗唱など、口頭練習を積み、音声指導を通して基本文型を覚えられるように授業を展開する。 ・与えられた条件の中で、自分の考えを表現できるようにするため、既習文法や、英作文のパターンを復習し、英作文を課題として与えて添削指導する。

宇都宮市立旭中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化	全校生徒が、年間を通して1日1ページ程度自主学習ノート(4年目)に取り組んだ。また、「学習の手引き」に自主学習ノート取組具体例を数多く示して学習支援した。	本校生の平日1日あたりの家庭学習時間(塾なども含む)は100分で、市平均と同程度である。90分以上学習している1年生は58%, 2年生は55%, 3年生は82%である。
基礎的・基本的な学習内容の定着	水曜5校時終了後に、25分間の授業「旭っ子タイム(2年目)」を設定し、全校生徒が国語・社会・数学・理科・英語の基礎的な内容の学習に取り組んだ。	5教科の正答率の平均を見ると、活用に関しては4.0ポイント、基礎に関しては2.5ポイント市平均より低い。基礎学力の向上を目指して2年間取り組んできたが、期待していたような結果を出せなかった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

全校生の71%が、学習に対して自分から進んで取り組んでいるが、市平均より5ポイント低い。生徒が自ら課題を考えて「自主学習ノート」や「A Iドリル」に取り組むことを通して、学びに向かう力(自らが学び、学び続ける力)を育むとともに、家庭学習の習慣化を図る。また、基礎的・基本的な学習内容の定着をより一層図るために、朝の学習の時間(10分間)を週2回(火曜日と木曜日)新たに設定し、タブレットを活用して学習指導を充実させる。